



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第166号

2007年6月12日

みなさん、こんにちは。今号は小原実知成展ギャラリートーク特集号です。

● 小原実知成展ギャラリートークがありました。

6月9日14時から開催された小原実知成先生と当館学芸員によるギャラリートークに、たくさんの方々がお越しくださいました。作者ご本人の口から、各作品のモチーフやその配置についてなどの解説が、時折笑いも交えながら語られました。むき出しの木材を使用した額縁



右手を伸ばして解説している
中央の男性が小原先生です

の横に、木材を精巧に描いた作品を展示していると、それがだまし絵のような効果をもって、本物の木材がまるで絵のように見えて「木目がうまい」と褒められたというエピソードの紹介に、笑いが起こりました。学芸員の吉田さんが「死を考えないと生きることは考えられない」と締めくくると、お客様から「残りの人生を大切にしなければと思った」という感想も聞かれました。

ギャラリートークは終わりましたが、小原先生は土日に展示室にいらっしゃいますの

で、どうぞ小原先生に質問や感想をお話しにいらしてください。

2枚の木目を見比べてみると...



と、それがだまし絵のような効果をもって、本物の木材がまるで絵のように見えて「木目がうまい」と褒められたというエピソードの紹介に、笑いが起こりました。学芸員の吉田さんが「死を考えないと生きることは考えられない」と締めくくると、お客様から「残りの人生を大切にしなければと思った」という感想も聞かれました。

ギャラリー
トーク終



ギャラリートークの様

小原先生の展覧会が文博で開催されることをインターネットで知ったかつての教え子さんたちが、同窓会を計画して、展示室にいらっしゃる小原先生に案内状を持って会いに来てくれたそうです。「8月は2回も同窓会に呼ばれているんだよ」と小原先生は嬉しそうに話しておいででした。かつての仲間たちが再開するきっかけに、文博がほんの少しでもお役に立てたのなら嬉しいことです。